
聖華学園物語

神羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖華学園物語

【Zコード】

Z6941

【作者名】

神羅

【あらすじ】

テニスの王子様でお馴染み『跡部景吾』さん以外は、完全オリジナルキャラの小説です。

Wヒロインの学園ラブコメディになっているはずです。

跡部景吾とヒロインの一人のユアがカップリングになっているので、嫌な方は見ないほうがいいかと思われます。

学校生活は「こんな学校ないでしょーー！」というような行事が多い楽しい学校生活になっています。

出合いは突然に……？

4月1日。

聖華学園高等部の入学式が始まる。

「…。じいじ、じょよ？（汗）」

そう、小さく呟いたのは【如月ヒサノ】。

聖華学園の体育館に行くはずが、真逆の方向に行ってしまった、ヒサノは人気のない校舎裏にいた

どこからどう来たのかサッパリわからない極度の方向音痴女です。（笑）

困っていると、背後に気配を感じた！！ 振り向くと……？

「どうしたの？ こんなところで？」

と、【琴葉ユア】が現れた

「あ、あの…迷っちゃって（苦笑） 体育館に行くはずが、こんな辺鄙なところに（汗）」

「あ、そうだつたんだ？ 校舎裏にふらふら入つていいく貴女を見て、『気分が悪いのかな？』つと思つて後を追つたの（笑）」

「ありがとう、貴女が来てくれなかつたらこのまま校舎裏を彷徨つてたところだつたわ（笑）」

「あはは、貴女、面白いね（笑） 名前、教えてくれない？ 何か、仲良くなれそう（笑）」

「私は如月ヒサノ！ 呼び捨てでよろしく 貴女は？」

「私は琴葉ユア（私も呼び捨てで！ よろしく！ヒサノ」

こうして出会い、仲良くなつたヒサノとユア

そのころ、
別の場所…

「ヤバイなあ… この調子だと遅刻だよ（汗） 入学式から遅刻つて

シャレにならないな…」

と、聖華学園に向かい、走りながら咳く【須堂慶】
急いでいるのに、運悪く信号に捕まり、焦っている時に、慶の横に
リムジンが止まつた

そして、後部座席の窓が開いた!!

「お前、須堂か?」

そう、窓から顔を除かせて、【跡部景吾】が言つた

一瞬、『何事か!?』と、戸惑つたが、景吾の顔を見て声を上げた!
「まさか…跡部か!?」

「その『まさか』だ(笑) 3年ぶりか?」

「ああ! 小学校以来だな(笑) 懐かしいな、お前、全然変わつ
てないね(笑)」

「お前だつて変わつてねえじやねえか(笑)」

慶と景吾は笑いながらうつ話していたが、慶ある事が思い出した

「悪い、跡部! オレ、入学式に行かなきゃ(汗) ジヤあ、またな
てないね(笑)」

と、走り出さうとしている慶を、景吾は引き止めた。

「お前、聖華に行くんだろ?」

「ああ、よくわかつた…つて、制服で解るか(笑)」
慶が制服をつまんで言つた。

「偶然だな(笑)」

「え?」

がちゅつとリムジンのドアを景吾が開けると…?

「俺も今日から聖華学園なんだよ(笑)」

と、慶と同じ制服を着た景吾が出てきた

「…マジで? (笑)」

「ああ(笑) 乗つていいくか?」

景吾が手で車の中を指差し、にやりと笑つた(笑)

「ああ、頼む(笑) また、よろしくな、跡部(笑)」

「【跡部】じゃなくて【景吾】にしねえか?(笑) 【跡部】だと、

小学校のまんまだしな（笑）」

車に乗り込みながら景吾がそう言つた
慶も、車に乗せてもらい、同意した

「ああ、賛成♪ オレも【慶】でよろしくな（笑）」
お互い、顔を見て笑つた

入学式が終り、校庭でクラス分けが始まった

1年3組　如月ヒサノ・琴葉ユア・須堂慶・跡部景吾

この4人が同じクラスになつた
さあ！　学校生活が始まる！！（>_<）

出会いは突然に…？（後書き）

初投稿なので、かなり緊張しています。

受け入れてもらえるかどうかがとても不安です。

これは3年前くらいに書き始めて、今もまだ連載中です。

書き方があまり上手くないと 思います。すみません。

喫茶店で…

4月3日。

始業式が終り、クラスでの総合時間が始まつた
「さて、これから1年、同じクラスになるんだ。自己紹介をしない
とな。」

と、担任である緒方先生が言つた

「じゃあ、まず跡部くんから。お、そりそり、大抵、出席番号が
1番の奴がクラス委員長になる。やつてくれるか?（笑）」
「…はい、引き受けます。 跡部景吾です、よろしく」
自慢の笑顔でクラスの女子を悩殺?!
それはわからないけど、とにかく目立ちますね（笑）

さてさて、順々に自己紹介をしていると、今度はヒサノの番に!
「如月ヒサノです、よろしくお願ひします、」
にこっと笑つて一礼するヒサノ それを見た跡部はあることを頭
の中で考えた!

「（アイツ、どこかで会つた気がするな…）」
どんな接点が!? それはともかく、今度はコアの番
「琴葉ユアです、よろしくお願いします」

少しはにかんで笑うユアちゃん
ヒサノちゃんと目が合ひ、恥ずかしそうに笑つた（笑）
そして最後は慶の番

「須堂慶です！ よろしく！」
慶の白い微笑みで顔を赤くする女子多発!？（笑）

ともかく、このクラスで印象的だったのは、
景吾・ヒサノ・ユア・慶

半日の学校が終わり、近くの喫茶店に入ったヒサノとコア！

「よかつたよね～♪ 同じクラスで♪ 嬉しい♪」

と、キヤラメルフロステイーを食べながらコアが言った
「しかも苗字が【き】と【い】で結構近いから、掃除の班とか一緒に
かもね♪」

と、紅茶を飲みながらヒサノも笑顔で言った

その時、喫茶店の入り口が開き、聖華の男子学生が2人、入ってきた
た

慶と景吾である！

4人の視線が自然とぶつかった

「　　」…………「　　」

無言

そこへ、店員さんがやつてきた

「2名様ですか？」

「あ、ああ」

「今、お席がいっぱいなんですよ、もう少し待つていただけないと空
くかと思われるのですが…」

それを聞いて、ヒサノとコアが顔を見合せた
小声で…。

「どうする？コア。席譲ろうか？」

「うーん、そうだね、一応食べ終わってるし…って、あの2人、同
じクラスの…えーっと」

「…名前忘れたけど、確か同じクラスよね」

「　　」…………「　　」

「譲るか。あの～、もしよければ、私たちもつ出るので、この席
に…」

と、ヒサノが言うと、慶と景吾は顔を見合せた

「まだ、飲んでるんじゃないの？ 如月さん」

と、慶がヒサノに言った

「（あ、名前知ってるんだ） 大丈夫です、後、一口くらいなんだと、ヒサノがにっこりと慶に話すと、慶は少しどきめいた（笑）そして、興味を持った！」

慶 「じゃあ、オレたちを同席させてくれない？ そこ、4人席だし」

ヒサノ「え…あ…、どうする？ ユア」

ユア「いいよ？ 同じクラスの人だし、ね？ えーっと、「ごめんなさい、名前忘れちゃったの。」

景吾「俺は跡部景吾だ」

慶 「オレは須堂慶だよ！」

ユア「私は琴葉ユアです！」

ヒサノ「如月ヒサノです」

景吾「すみません、あそここの席と合流するので」と、景吾が店員さんに言って、2人は席の近くに寄ってきた

ヒサノ「えっと…どう座ります？」

ユア「じゃあソファー側に私とヒサノで座る？ つか？」

慶 「うん、それでいいよ」

そう、4人が席に着くと、景吾がある事を思い出した

景吾「まさか…ヒサノか？」

ヒサノ「はい？？ 確かに名前はヒサノで… あ つ…」

ユア「な、何！？ どしたの！？」

ヒサノ「跡部景吾か！？ 思い出した…！ 昔、向かいの家にいた

景吾よね！？」

慶 「え、景吾、知り合い！？」

景吾「やつぱりな（笑）どこかで見た顔だと思った（笑）お前、幼稚園の卒園式の日に千葉に引っ越したヒサノだろ？（笑）」
ヒサノ「そっそー、うつわ、マジで？ 幼稚園の幼馴染にこんなところで会つなんて…（笑）」

慶「偶然だね（笑）オレは景吾と小学校の幼馴染だよ（笑）」
ヒサノ＆ゴア「マジで…？（笑）」

慶「うん、マジ（笑）つと、オレは君達のこと、何て呼んだらいいい？」

ゴア「【ゴア】でいいよ」

ヒサノ「私も【ヒサノ】で結構よ♪」

慶「ありがとう、オレは【慶】でいいよ♪ よろしく、ゴアちゃん、ヒサノちゃん♪」

景吾「俺も【景吾】でいいからな。ヒサノにゴアか、よろしく（笑）」

そう言い終つた後、男性陣2人はヒサノとゴアをじーっと見た

ヒサノ「…何？（笑）」

ゴア「何々？？ ん？クリームでも付いてる？？ 見て？ヒサノ

【ヒサノに顔を見せる】

ヒサノ「いや、付いてないよ（笑） 私は？？」

ゴア「付いてないよ（笑） デーしたよ？慶くんに景吾くん（笑）

」

景吾「いや…気に入つたな、と思つてな（笑）」

慶「同じく（笑）」

ゴア「気に…」

ヒサノ「入つた…？？」

景吾「ゴア、彼氏いるか？」

ゴア「何を言つたと思えば（笑） いない、いない（笑）」

景吾「ふうん…」

慶 「ヒサノちゃんは？」

ヒサノ「ん？ いないよ？ モテないし（笑）」

慶 「へえ～…」

コア「…何だ何だ？？（笑）」

ヒサノ「あはは、私たちに一日惚れしたとか？」 そんなことない

…

慶 「よくわかったね！」

景吾「よくわかつたな（笑）」

間。

ヒサノ＆コア「…は？？ 今、何と？」

景吾「一日惚れしたのか？」と言つたから答えただけじゃねえか（笑）」

慶 「オレ、ヒサノちゃんに一日惚れしちゃったな」

景吾「俺はコアだな（笑）」

ヒサノ＆コア「…ええ！？／＼／＼／＼」

景吾「コア、俺と付き合わねえか？」

ゆい「え…え…！？ ド、どうしよう！？ ヒサノ…【パンチ

ク】

ヒサノ「…うん、いいんじゃない？」一応、カツコいいから（笑）

」

コア「何で適當な！？（笑）」

景吾「で、どうなんだよ？（笑） 不服か？（笑）」

コア「い、いや、不服なんてありませんが…突然でびっくりしたよ（笑）…いいよ？付き合おつか（笑）」

景吾「ああ、よろしくな（笑）」

コア「うん（笑）」

結構軽いノリで付き合つことになつた景吾とゴア

慶 「で、オレはヒサノちゃん」と付き合いたいんだけど? (笑)
ヒサノ「…何で私? ? (笑)」

慶 「そう来たか (笑) 初めのクラス自己紹介の時から気になつてて、ここで会つたのも何かの縁かと思つて告白した。どう? 」
ヒサノ「誰でもいいってわけじゃないなら付け合つよ (笑)」

慶 「もちろん、ヒサノちゃんがいいんだよ♪ (笑) ジャあ、Yesと取つていののかな?」

ヒサノ「うん、よろしく♪ 慶くん (笑)」
慶 「よろしく♪

こちらも結構軽いノリで付き合つ慶とヒサノ

さてさて、付き合つことになつた4人

これからどうなる! ? 学園コメディーLOVE が始まるつーー!

(笑)

喫茶店で…（後書き）

（笑）とかを使い過ぎでしようか？
セリフの前に名前を入れる癖を直さなければならぬと思つ今田この頃です。

いきなり実力テスト&罰ゲーム！？

4月7日。月曜日。

付き合いだしてから4日

なのに、この2カップルの噂はもう聖華学園にバレバレ（笑）

公認カップルって感じ？（笑）

もちろん、噂を広げたのは慶と景吾（笑）

悪い虫が付かないように早速手を打った彼氏～ズ（笑）

そして今日は…！！

ヒサノ「抜き打ち実力テスト？…？」

慶「うん、らしいよ？（笑）これね、1番～50番まで張り出されるんだって（笑）」

景吾「上等だぜ（笑）」

ゴア「景吾くん、『上等だぜ』って喧嘩じやあるまじし（笑）」

ゴアちゃん、もつとも

慶「3人とも、自信ある？（笑）」「…もちろん…！」

慶「じゃあ、4人の中で順位最下位の人は、明日、4人分のお弁当作つてくれるってどう？（笑）」

ゴア「おもしろそう…。（笑）やるやるー（^_^）」

ヒサノ「いいけど、慶くんと景吾は料理できるの？（笑）」

景吾＆慶「困らない程度には（笑）」

ゴア「よおし…。じゃあやるつゝえーっと、国語、数学、英語、理科、社会か…」

ヒサノ＆ゴア「…ござり、尋常に勝負…。（笑）」

5時間かけて、テストが全部終った

只今。午後一時。 午後五時に結果発表らしいので、

それまで校庭でお茶を飲んでいる4人

コア「どうだった？ 手応え（笑）」

ヒサノ「コアは？」

コア「ふつふつふ、結構自信があるので（笑）」

慶 「オレも自信あるよ」

景吾「……」

ヒサノ「どうしたのよ？」 景吾（笑）

景吾「いや…英語のリスニングのテストあつただろ？」

「「「うん」」

景吾「楽勝でわかつて、答案用紙に答え書いてたんだが… 全部書いたら枠が一つ余ったんだよ」

慶 「…それって（笑）」

景吾「どこかを飛ばして書いちまつて、その後、全部答え1つず

つずれたんだよな、きっと（汗）」

「「「あはははははは！」（爆笑）」

ヒサノ「うわあ～、天才跡部景吾でも間違いはあるのね（笑）」

コア「じゃあ、明日は景吾くんのお弁当かな？（笑）」

慶 「楽しみにしてるよ♪（笑）」

景吾「ちひ（笑）」

さて、午後5時

職員室前に張り出されます

1位から順に見ていくと…？

慶 「よーっしー！ オレ、3位！！（笑）」

ヒサノ「すゞっ！？（笑） あー！コア、10位じゃん…！」
ゆい「やつたね ヒサノは…11位！？ しかも合計、私と2

点しか違わないじゃん！－？（笑）」

景吾「…15位か。今回も負けたな（笑）」

でも、この4人凄くない！？ 学年合計600人いるのよ…？（笑）

慶 「さあ、明日は景吾のお弁当だからね（笑）」
ヒサノ「ちゃんと自分で作りなさいよ？（笑）」

景吾「わかつてる（笑）」

ユア「楽しみにしてます♪（笑）」

次の日。

キーンゴーンカーンゴーン

ユア「お弁当 お弁当」

慶 「中庭に行こうか」

景吾「慶、一つ持つてくれ（笑）【包みを一つ渡す】」

ヒサノ「何かな？」♪ 楽しみだわ（笑）」

In 中庭

景吾「さあ、作ってきたぞ。」

そう言って、包みを全部開けると…？

ヒサノ「…これ、ローストビーフ？（笑）」

景吾「そうだ（笑）」

ユア「これ、ウニ？（笑）」

景吾「ああ、半生だ。腐らないようにちゃんと氷添えたりクーラー ボックスに入れたりしたから大丈夫だぞ（笑）」

慶 「このオムライスとサンドウイッチ、作ったのか？（笑）」

景吾「まあな（笑）」

ヒサノ「景吾のお弁当、飽きないね、きっと（笑）」

ゴア「うん（笑）こんなにバラエティーに富んだお弁当、初めて（笑）」

慶「お前、今日、何時に起きて作ったんだ？」（笑）」

景吾「…4時。」

うん、偉い（笑）

いきなり実力テスト＆罰ゲーム！？（後書き）

本当はWordで書いてるからフォントの種類や大きさを変えたりしているのですが…反映できなくて残念です。
ほのぼのLOVEを目指しているつもりなのですが、どんどん趣向が変わっていきます。

またまた抜き打ち 今度は体力測定！？

景吾のお弁当を食べ終わって、話していると…？
ピーンポーンパーンポーン

『新一年生の皆さん、今から体力測定をします。教室に戻り、運動服に着替えて校庭に集合してください』

「…………」

景吾「何でこんな急に体力測定するんだよ？（笑）」「さあね…（汗）とにかく、一旦教室に戻つて着替えないとな」

ヒサノ「ユア、更衣室つてどこだっけ？」

ユア「体育館の隣じやない？っていうか、600人近くいて、半数女子だとしても…300人も女の子どこで着替えるのかな？（汗）」

ヒサノ「…教室かな？」

するつ（3人がずつこける音）

景吾「お前、男子生徒も教室で着替えるんだぞ！？（汗）」「ユア、ヒサノ、女の子だからそれはダメよ？（汗）」

慶「ヒサノちゃん…（汗）」

ヒサノ「いや、まあ、今の発言は忘れて（笑）とにかく、教室に体操服取りに行かなきゃね（笑）」

とりあえず、体操服を取りに帰り、ヒサノとユアたち、つまり女子は体育館で着替えることになった
着替え終わつて、校庭に出ると、沢山の生徒がいた！
ヒサノ「ユア、体育得意？」

コア「まあまあ？ ヒサノは？」

ヒサノ「私、苦手（汗） 泳げないし、運動できないのよ（笑）」

そう言いながら、校庭に向う2人

2人の周りには、同じクラスの女の子たちが取り巻いていて、にぎやかに話している

「ヒサノ、体育苦手なんだ？ イメージと違うね（笑）」「

「意外にコアちゃんが得意なんだよね？」

「え、みんな結構走るの速いんだ！？ ヤバイ、私遅いの！（汗）

「などと、和やかに話をしていた

生徒が揃うと、体育の先生たちが出てきて、生徒を整列させた。

先生「よし、じゃあまず、1組は50m走！ 2組はソフトボーリ投げ！ 3組は…」

ヒサノ「つていうかわ、15クラス一気に測定って効率悪すぎじゃない？（笑）」

コア「だよね（笑） まあ授業が潰れていいか（笑）」

などと、クラスの女子みんなで話していると、慶と景吾が50m走を計るようだ！

女子全員、注目 そして、合図と同時に走り出す慶と景吾を見て、女子ため息（笑）

「いいなあ、あんなカッコいい彼氏（笑）」「

「羨ましいよ、ヒサノ、コア（笑）」

「ねえねえ、どっちから告白？」「

「っていうか、付き合いだすのかなり早かつたよね？」

と、女の子特有 恋バナです！

「いや、偶然喫茶店で会つて…（笑） 何か、付き合つ？みたいな感じに…ねえ？ユア（笑）」

「何か結構縁があつたみたいで、ねえ？（笑）」

と、居心地悪そうに笑う2人

走り終わった慶と景吾、クラスの男子生徒がいるところに戻つてきた

「お前らが走つてる時、女子が『カッコいい』とか色々話してるの聞こえたぞ（笑）」

「つていうか、お前ら、何で初っ端から可愛い女の子ゲットしてんだよ！？（笑）」

「如月さんに琴葉さん、かなりポイント高いんだぞ？」

「そりや、俺の彼女だから可愛くて当たり前だ（笑）」

「ポイント高いだろうねえ、女の子からも人気あるみたいだし？絶対渡さないからな（笑）」

男子生徒諸君も興味あるのね（笑）

さてさて、

ヒサノとコアも、走り終えて、今度はソフトボール投げまずはヒサノの番！

「頑張れー！ ヒサノちゃーん！」

などと、声援を受けて、投げた結果…。

先生「…如月、もう一回やるか？ 今度ちゃんと投げろよ…（汗）」

ヒサノは恥ずかしそうに頬を搔きながら、頷いた（笑）
調度、クラス全員（男子含む）見てるので、緊張しているのか？
と、思いました。

6m。

一同『え…』 再び

ヒサノ「…。すみません、力がないのでこれが精一杯で…（汗）」

先生「そ、そうか…（汗） 如月、ちゃんと握力はあるか？」

ヒサノ「はい、わざと詰つたら、右が18で左が16、ちゃんとありました。」

…。ちゃんとあるーって、聞える数でしょ？（笑）

仕切りなおしにコアなやん登場（笑）

「コアー！ ヒサノのーの舞にならないでねーー（笑）」

「悪かったわね！（笑）」 ヒサノ

「やつやつ…（笑）」

ひゅ～～～～～…

一同『え！？』

記録：40m
結構飛んだね

先生「上出来、上出来（笑）」
コア「ありがとうございます♪ えっへへへ」
ヒサノに余裕勝ち
(^ ^)」

休憩時間

「ん？ ヒサノ、コア、彼氏さん来てるよ♪（笑）」
「アツアツ～♪ ヒューヒュー～」
周りに冷やかされ、少し恥ずかしそうに慶と景吾の近くに行つた（笑）

景吾「よう、7mの女（笑）」
ヒサノ「失礼な！！（ ； ）（笑）」
コア「景吾くん、違うよ！ 6mだよーーー！」（笑）」
ヒサノ「コア、フォローになつてない（笑）」
慶「あはは、いや、あれはおもしろかったよ、マジで（笑）」
景吾「お前、運動苦手だつたんだなあ？（笑）」
コア「いや！逃げ足は速かつた！！」

『…逃げ足？？』

ヒサノ「逃げ足というか…（笑）」

慶「何？逃げ足つて（笑）」

コア「5人いっぺんに走るでしょ？」

その中にキス魔の女の子がいて、『私より遅かつたらキスしちゃうから♪』って言われてたの（笑）』

景吾「はははは！（爆笑）」

慶「うん、そつ…それは逃げ足…だね（爆笑）」

ヒサノ「もう必死よ？（笑）」

慶「必死になるだろうね（笑）」

コア「で、堂々の1位！ね？逃げ足でしょ？（笑）」

景吾「だな（笑）俺と慶も結構速かつたぜ？」

慶「うん、クラスの中ではトップのほうだよ（笑）」

コア「私もトップのほうだよ♪ ヒサノもソフトボールと握力以外は大丈夫だよね？（笑）」

ヒサノ「いや…バレー・ボールの連続トスが出来なかつた（笑）」

慶「何回だったの？」

ヒサノ「…7回」

景吾「嘘だろ…？」

ヒサノ「その同情込めた言い方やめる…！（笑）」

コア「え、そんなだつけ！？（汗）」

ヒサノ「コアのいない時に順番回つてきたのよ（笑）」

慶「まあ、いいじゃん？ 気にしない気にしない（笑）」

景吾「球技大会どうすんだよ？7回はキツイぜ？」

ヒサノ「大丈夫！一人でトスするのが苦手なだけだから♪（笑）」

ユア「よかつた（笑）」

じゃあな、また後で

景吾「お。召集がかかつたな。

慶「バイバイ」

またまた抜き打ち 今度は体力測定！？（後書き）

この小説は、ほぼオリジナルになつてるので、ここまで読んでいただけなら感無量です！

どんどんギャグに突つ走つしていく感じなので、着いてきてもらえた
ら嬉しいです。

ある英語の授業で

第4限目、担任の緒方先生の英語の授業中

緒方「じゃあ英語の教科書の2ページ目。須堂、例文1の訳」

須堂「はい。【彼女はそのパーティーに出席する必要がある】」

緒方「正解。では、小島。例文2の訳」

小島「はい、【あなたがこの小包を送るのに5ドルかかるでしょう】

「

緒方「正解。」

ここまではいいんですよ、問題はこの後です

緒方「如月、琴葉。このペア文を実際に会話形式で言つてくれ（笑）

「

如月&琴葉「ええ！？」

「おー！ 頑張れ頑張れ（笑）」

「あはは、やつてやつて！（笑）」

はやし立てられて、本を持つて教卓のところへ（笑）

如月「えっと… I, m crazy about him.（

彼に夢中なの）」

次は琴葉の番なんですが、一人の女子が声をあげた！

「ユアちゃん！ ホントの彼氏の名前で答えて！！（笑）」

琴葉「ええ！？（汗）」

緒方「お。それはいいな（笑） お前たちの噂は全員知ってるし、ここからは本命の名前で会話してみては？（笑）」

如月&琴葉「嫌ですよ…！（汗）」

それを見て笑つてる彼氏～ズ（笑）

クラス内では「やつて 言つて やつて 言つて」のループで充満（笑）

琴葉「うう…いじめだ（涙） いいもん！ Kei is a

p1ayboy. But I think he has a

crush on you・（慶はプレイボーイなのよ。でも、
彼は貴女が好きみたいよ）「

『おお――――（笑）いいぞいいぞ――――（笑）』

如月「I fell in love with him at
first sight.（一目惚れな）
…って、ねえ、緒方先生！！もういいでしょ！？（笑）
これ、かなりハズいんですけど！？（笑）」
琴葉「そうですよー。（笑）つづりうづか、もうこの文終ったし、
いいですね？（笑）」
緒方「よし、まずは交代だ（笑）」

…交代？？

緒方「跡部、須堂。如月と琴葉と交代だ。」

『え？』

緒方「跡部と須堂は、5ページの対話文だ。須堂から」
須堂「マジっすか…（笑）えっと…she, she, too much
for me.（彼女は高嶺の花だなあ。）」
跡部「Who is she?（彼女って誰だ？）」

『本命の名前でね――――（笑）』

須堂「オッケー（笑）Hisano. I'm trying
to make a pass at her.（ヒサノだよ。彼
女にアタックしようと思つてるんだ。）」

『つて、もうアタック済みだろー？（笑）』と、いう一人の男子生徒のツツ ノミで一同爆笑

跡部「She's a nice girl. Take it easy!」（彼女はいい人だよ。頑張れ！）以上（笑）
須堂「もういいですか？（笑）」
緒方「そうだな…跡部、須堂、じゃんけんしろ（笑）負けたカツブルにはもう一つやつてもらう（笑）」

『緒方先生、ナイス（爆笑）』

如月「ナイスじゃない！！（笑）慶くん！絶対負けないでよ？」
琴葉「景吾くん、もう恥かきたくないから勝つてよ～（笑）」

「最初はグー！じゃんけん、ポン！」間抜け（笑）

須堂「勝ったー！！（笑）」

跡部「悪い、コア（苦笑）」

琴葉「そんなあ（涙）」

如月「いつてらりっしゃいー（^ ^ ^）」

さあ、また教卓の前に立つコア そして景吾（笑）
クラス中がはやし立てる中、英会話を始める（笑）

跡部「Are you free tonight? Would you like to go for a drive?
（今晚暇かな？ ドライブに行きませんか？）」
琴葉「Are you trying to pick me up

p? (私をナンパするつもりなの?)」

跡部「You're my type. (君、僕のタイプなんだ。)」

「大人の駆け引きだ.. (笑)」

緒方「ん? 今、呟いたのは如月か? (笑)」

如月「(しまつた! 声に出た!) (汗)」 い、いえ、違います (笑)

「 緒方「如月だな (笑) じゃあせつかくだから、如月と須堂もやる
か? (笑)」

如月「結構です!! (汗)」

須堂「オレ、やつてもいいですよ? (笑)」

如月「慶くん!?

緒方「よし、じゃあ跡部、琴葉、¹苦勞 (笑) ほら、如月と須堂、
ここに来い (笑)」

またまた教卓の前にやつてきたひとみと慶

緒方「じゃあ、13ページのところを。大丈夫、普通の英会話だ (笑)」

「 はい (笑)」

如月「Please fill out this... レジストれ..
すカ~ド??.?ぬー??.?」

『何語!?(爆笑)』

緒方「何語だよ (笑) 如月、英語だ (笑)」

須堂「あはは（笑） 最後の『ぬー？？？』って何？ ヒサノちゃん（笑）」

如月「わかんない（笑） 何か勝手に口から出た（笑）」

緒方「まあ、授業の最後の締めを、如月の『ぬー？？？』にしどくか（笑） 今日はここまで、また明日も英語あるからな（笑）」

『緒方先生！』の授業のやり方おもしろいんで、是非、明日もー。（笑）

『賛成！！（笑）』

『超楽しみにしてるねー＼ ヒサノ＼コア＼（笑）』

如月＆琴葉「「もうやらないー！ー（笑）」」

ある英語の授業で（後書き）

英語の授業風景を書いてみました。
恥ずかしいけど、こんな授業は楽しいだらうなと思います。
緒方先生は後々活躍してきますので！！

コンテスト！？

4月下旬の月曜日。

昼休みにゆつくりと昼食をとっている1年3組のクラスに、ある生徒の大声が響いた

「聞いて聞いて！－明日の昼休みに美少年コンテストするんだって

！－！（笑）」

ゴア「…。出たら？ 景吾くん、慶くん（笑）」

ヒサノ「うん、楽しそうだから出てみたら？（笑）」

と、暢氣に話しているゴアとヒサノに…天罰が！？

「女子2人ペアで、1人は男装して美少年＆美少女カップルを作るんだって！」

「マジで！？ ヒサノ、ゴア！－ 出なよ！－（笑）」

「絶対いけるつて、ヒサノは男装してゴアは可愛い格好するの、ね！－いいよね！（笑）」

「「…は？（汗）」」

2人は『嫌だ』という風に固まつたが、その次の言葉で心変わりした

「優勝は現金5千円だって！－」

ヒサノ&ゴア「「よし、やるわー……（^▽^）」」

景吾「現金な奴だな（笑）」

慶 「あはは、まあいいじゃん（笑）で？ どんな服装するの
？」

「ともかく、ヒサノ！ ユア！ 早く食べてこつち来て！ 衣装考え
ないと！（笑）」

「「オッケー」」

次の日の朝…。

クラスの女子たちが考えた服装

ユア：白いシルクのブラウスに大きい赤いリボンを胸元に
黒のこうもりスカートに黒いハイソックスに革靴
とビーミーに、可愛らしい燕尾服を羽織る

「サイコージゃない！？ ね！（笑）」

「かつわいい～」 跡部くん、見た！？ 彼女の晴れ姿♪（笑）

「あ、ああ…（笑）（似合つてんなあ）」

ヒサノ：白い半袖のブラウスに、黒っぽいネクタイ

男物の黒い上着を羽織り、ズボンはストリートダンサー風
に そして運動靴

髪は服の中に隠したので、ショートカットに見える…

「おあ！ 男前♪（笑）」

「それって褒めてんの？（笑）」 ヒサノ

「褒めてる褒めてる♪ 須堂くんと雰囲気似てるよね？何か（笑）

「似たものカツプルつてやつ？（笑）」

「あはは、カツコいいよ、ヒサノちゃん♪（笑）」 慶

をしたて、着替え終わってコンテスト会場の中庭に行くと…？

「やつぱり、ヒサノとコアが一番イイ線いってるってー。」これは勝つでしょ？ね？」

ヒサノとコアの周りを取り巻いている女の子たちは言った
慶と景吾は、女子に押しつぶされると嫌なので、教室の窓から様子を観察している（笑）

慶「うん、これは勝つたでしょ（笑）」

景吾「ああ（笑） 楽勝だろ……ん？ おい、慶、あれ見ろーー！」

慶「え？」

ヒサノが指をさしたのはヒサノとコア！

そり、ヒサノとコアは何故か男子生徒から沢山のラブレターを貰つている

おやりく、いつも慶と景吾が一緒に渡せなかつたのが、今日はなんとラッキーなんでしょう？

ヒサノとコアの鉄壁的存在がいないんですよ（笑）

これを見過ごすわけはない！！

慶と景吾はダッシュで中庭に出て、ヒサノとコアの所へ行つた（笑）

慶「はい、そこまで～～ ストップ～【黒笑み】」

景吾「お前ら、どうぐさに紛れて何、アピールしてんだよ？（笑）」

「いいじゃねーか！～ ラブレターくらい渡したいんだよー。（笑）」

「お前らばっかりズルイ！！（笑）」

などと、言いつつ、男子生徒は笑いながら『如月さんー琴葉さん！

慶と景吾に飽きたら俺たちに声かけてな』と囁いて去つていつた（笑）

慶「全く、油断もすきもないな（笑）」

コア「景吾くんたち、田がいいねえ（笑） 教室からわかるなんて（笑）」

景吾「どんな人ごみでも俺はコアのことをみつけてやるよ」

アーリー!! // // // //
あれこれかど」「// // // //

今のセリフ、恋人から言われたら最高ですね！

ヒサノ「いやん、アツアツ（笑）まあそれは置いておいて、ユ

「あ、うん！」

慶一あ（汗）

ビサムと二万四千人をもとエントリに場に行つた

慶
「（〇一）（苦笑）才ノ毛ハカニ

たのに…（笑）」

残念だつたね！慶くん

エントリーが終わり、コンテストが始まった
全部で15組くらいだろう。女子30人が観客の前に立つた
司会「さて、始まりました！ カップル美少年＆美少女コンテスト
！」

まずは立ち姿で審査してください

卷之二十一

⋮ ⋮ ⋮

「はい、集計が終りました。現在のトップは9組の如月・琴葉ペアです！」

『ほりーやつぱり 絶対ヒサノとコアがいいよ！（笑）』

『次は何の審査だろうな?』

慶 「納得のいく結果だね♪(笑)」

景吾 「もちろんだ(笑)」

司会「では、1組ずつ【熱い抱擁のあと、観客席田線で一言お願
いします!】(笑)」

『…は? (爆笑)』

司会「あ、別にオリジナルじゃなくていいですよ? 芸能人が言
つてた言葉でも構いませんし(笑)

例えば、『どんだけ〜〜〜!〜』とかでもいいですよ(笑)

「

うん、司会者、ノリ良すぎ(笑)

慶 「うわあ…面白いコンテストだな、これ(笑)」

景吾 「あいつ等、何を言つんだろうな(笑)」

順々に熱い抱擁と一言を言つカツップルたち(笑)
そして、ついにヒサノとコアの番!!

司会「では、如月・琴葉ペア、お願いします!」

『頑張つてね〜!(笑)』

『やれやれ〜!(笑)』

ヒサノとコアは立ち上がり、熱い抱擁 そして観客に向つて一言

!!

如月&琴葉「キスされるより、するほうが性に合つてますので♪

し
つん

と、一瞬してから、

『あははははは！－（爆笑）』

と、大爆笑が起こった

景吾「ふ、普通に言葉のチョイスが間違つてんだろ！？（笑）」

慶「あははは！－（笑）なかなかすごい言葉を思い出したね

（笑）」

審査終了

司会「優勝者発表！－ ルックスもオッケーなのに笑いを取るのも超一流！？」

9組の如月・琴葉ペア優勝！－

「やつたー！－ 5千円！－（> < ）」「

コレテスト！？（後書き）

何だか、どんどん自信をなくします（汗）

昔書いた小説とはいえ、「これ、投稿して大丈夫？」といつ気持ち
が…。

もしよければ、何か感想書いていただけると嬉しいです！！

5月のGW！！

5月3日 土曜日 「ゴールデン・ウィークの始まり
今日は、初めて学校以外で会うことになつた4人！

午後2時。

コア「この【出会いの喫茶店】でお茶するのは1ヶ月ぶりくらいだね」

ヒサノ「ねえ、【出会いの喫茶店】って、出会い系喫茶じゃないんだから名前変えようよ（笑）」

景吾「まあ、意味は間違つてないが…（笑）」

慶「確かに出会い系みたいな感じに聞こえるね（笑）」

そう、この4人は、カップル成立させた喫茶店に来ています

景吾「それにしても…私服で会うのは初めてだが、コアはイメージ通りと言うか何というか…（笑）」

ヒサノ「ビックリでしょ？ 「ゴスロリ」なの、まあ【ゴス】は黒髪だし、【ロリ】もあつてるしね（笑）」

コア「ヒサノ、【ゴス】はまだしも【ロリ】があつてるって何さ？（笑）」

ヒサノ「男性陣の前では言えませんね〜（笑）」

慶「いや、言わなくて…」

景吾「わかる（笑）」

コア「…景吾くんの痴漢…………（笑）」

ずるつ 3人がずつこけた音（笑）

景吾「お前な、俺だけじゃねえぞ？（汗） 慶だつて気付いてるし、学校の奴らも知つてる（笑）」

コア「だつて、今の景吾くんの視線が痴漢だつた（笑）」

ヒサノ「もう見てたしね（笑）」

ヒサノちゃん、フォローなし！？

景吾「じゃあヒサノはどうだつてんだよ？（笑）」

ヒサノ「待つた！ 私と一緒にしないで（笑） 私、女だから（笑）」

「

慶 「そりだよ、景吾（笑） ヒサノちゃん、女の子だよ？」

コア 「そりだよー！ヒサノはカツ パンお姉さまだよー？」 一緒に

しちゃダメダメ（笑）」

ヒサノ「…カツ パンいいかはわからないけど、ともかく私は壁女よ（笑）」

コア 「ユアは山女（笑）」

慶 「いいパンビじゃない？（笑）」

景吾「格好的にもいいパンビだな（笑） パスロリと男装（笑）」

コア 「普通にスカートはしてる時もあるんだよ？一応（笑）」

ヒサノ「『一応』はいらぬでしょ（笑） 女らしく格好しても…壁だからね（笑）」

コア 「あ、もしかしてちょっと気にしてるの？（笑）」

ヒサノ「ん？ いや、別に？（笑） ただ、コアを見ると…」

ん、意識するね（笑）」

景吾「意識して少しは女らしくなつたらいいんじゃないかなえか？（笑）

「

慶 「別に意識しなくても女らしさと思つけど？（笑）」

景吾「コアは女らしいがな、ヒサノは何処を見ても駄目だぜ？（笑）」

コア 「今度、女らしさを叩き込んであげるよー（笑）」

ヒサノ「叩き込んで身に付くもの？（笑） まあいいや、よひしへお願いします（^▽^）」

などと、ほのぼの（？）会話をしていると…。

景吾「やうだ、お前ら、知ってるか？ 来月、第一回文化祭～紫陽花の乱～ってのがあるんだってよ（笑）」

「 「 「 …は？」 」

紫陽花の乱…！？！？

景吾「聖華はいっぱい行事があるんだぜ？ 知らなかつたのか？」
(笑)

ヒサノ「初耳（笑） つていうか、第一回つてことは何度もあるわけ？」(笑)

慶一「（生徒手帳を出して調べながら） あ、ホントだ、あるな
(笑)

ゴア「文化祭かあゝ 楽しみゝ」

景吾「まあ 文化祭の練習といつか準備といつか… それは今度の球技大会が終つてからだな」

ヒサノ「うわあ…球技大会か（汗）」

慶一「苦手？（笑）」

ゴア「違う違う、出来るんだけど面倒なんだよね？（笑）」

景吾「まあ、7mの女だしな（笑）」

ヒサノ「つるわいー（笑） まあ 頑張るけどさあ…種田は何だっけ
？」

ゴア「確か、バレー ボールと卓球だよ（笑）」

ヒサノ「よつし… 卓球で行こつー（^ ^ ^）」

ゴア「いや、全員バレーも卓球もするのよ？（笑）」

ヒサノ「（…！？）…チーム戦つて苦手だ（笑）」

景吾「まあそつぼやくなよ（笑）話それたが、来月、つまり6

月は偏差値テストがあるぜ？」

慶 「また？（笑）テストや行事が好きな学校だな（笑）」

コア 「ホントにね（笑）まあ楽しいから良し▽（> <）」
ヒサノ「球技大会つてさ、卓球は女子♂vs男子があるみたい。ダブルスと、シングル（笑）」

慶 「オレたち4人が当たつたら笑えるよな（笑）」

さあー？ 慶くんの読みは当たつているのかー？ 次回に続く（笑）

5月のGW---（後書き）

「」辺から、この物語のベースらしいものが出てきます。
文章書くの、上手くなりたいなあ…。

波乱の球技大会！！真剣勝負！？

さて、ついに来ました！！ 噩の球技大会 噩！？

全員着替えて、運動場にでている！

ヒサノとコアは、クラスの女の子たちと楽しげに話しながら、開会式を待っていた

「ホントに行事が好きな学校よね（笑）」

「いいじゃん？ 授業つぶれるし（笑） ね？」

「みんな、優勝狙おうね～！！（笑）」

などと、話していると、開会式が始まり、

そしてついにヒサノとコアの所属グループが試合に

『頑張つてよー！！』

『ユア、こけないようにね～！（笑）』

『それを言つならヒサノもじやない？（笑）』

などと、声援を受け、試合開始！！

「ええ！？ 私からサーブ！？ まあいいけど……」

と、ヒサノが言うと、女子の間から景吾と慶が声をかけた！

慶 「ヒサノちゃん、頑張つてね～♪ コアちゃんも頑張つて♪」

コア 「ありがと！慶くん♪」

景吾 「ヒサノー！ ～ますんなよ？（笑）」

ヒサノ 「解つてるよ！（笑） よし、行け！」

ズバンッ サーブで得点入れた音

「え～！？ 今何！？（：）」

「待つて！？ 滅茶苦茶速かつたよ！？（笑）」

ゴア「なんと、ダークホースの如月ヒサノ！　トスは7回のくせに、サーブが凄い！！（^▽^）」

ヒサノ「って、何でユアが実況中継してんのよ？（笑）」

ゴア「いや、だつてみんな、呆然としてるから（笑）」

うん、確かにね（笑）

チームの女子も驚いてます　そして、彼氏～ズも驚いてます（笑）

景吾「あいつ…運動神経いいのか？ホントは（笑）」

慶「うん、よくわからないけど、凄いね（笑）」

さあ、そして今度はゴアのアタックの番

ヒサノ「ゴアー！　拾つて！」

景吾「ゴアー！　頑張れよ（笑）」

慶「ゴアちゃん　ファイトー！」

ゴア「よおし！　そりやー！」

パサツ…ポトツ

ネットに引っかかり相手の陣地に見事に落ちた音

ヒサノ「その技は…ネット際の魔術師！？（笑）」

どこかで聞いたようなフレーズですね

「すつーーー！　ファインプレーだーーー（笑）」

「コア、つま～い！！（笑）」

コア「えへへ～ 見てた！？ ヒサノ～」
ヒサノ「見てた見てた！！ つていうか同じチームだから見てない
とオカシイでしょ（笑）」

コア「確かに（笑）」

景吾「よくやつたじゃねえか（笑）」

慶 「何だかんだ言つて、コアちゃんもヒサ～ちゃんも上手いん
だね（笑）」

さあ、今度は男性陣の番です
まずは景吾くんがサーブです！！

ヒサノ「景吾～、外したら駄目だよ～？（笑）」

コア「外したらヒサノが関節技かけるつて～～（^ ^ v）」

景吾「はあ？！（笑）」

慶 「何！？ その新ルール～～（笑）」

ヒサノ「かけないかけない～～（笑） 何を勝手な口上言つてるの

！？（笑）」

コア「そのほうが盛り上がるかな、と（笑）」

景吾「ともかく、まずはサーブだな… よし」

真剣に構えて、いざ サーブ～～

バコッ

球がそれで、クラスの男子に当たった音（笑）

「跡部！（涙）」

「あ、悪い（笑）」 景吾

卷之三

景吾「打つ時にブレたんだよ（笑）」

審判 - サーブ 須堂

「おまえ、いじとん見せないとな」

ユア「慶くん、ガンバ

ヒサノ「頑張れ〜！！」

スポーツ
球が体育館のバスケットゴールに入った音（笑）

『マジで！？（爆笑）』

靈廟」。我前、器用だば（笑）

慶 「ホントにね（笑） 何で入るかなあ…（笑）」

ヒサノ「慶くん、サイゴーに面白かったよ♪（笑）」景吾も笑了た

ユア「2人とも笑いのセンスありだよ！！（笑）」

波乱の球技大会！！真剣勝負！？（後書き）

「」では、ちょっとテニスの王子様ネタを出してみました。
『ネット際の魔術師』、このフレーズが好きなので（笑）

またまた真剣！？ 卓球で勝負

さあ、今度は卓球！！ 男子、女子を終え、男女対抗卓球勝負をこなす！慶くんの予想は当たるでしょうか！？

景吾「慶、俺と組むだろ？ダブルス」

慶 「ああ、もちろん！ で？ まさかとは思つたけど…」

景吾「ホントにくじ引きかよ？（笑）」

ヒサノ「ふふふ」 私たちと当たるとは、運がない男達ねヽ（笑）

「

コア「ヒサノ、それ、魔性の女キャラだよ（笑）」

ヒサノ「え？ そう？（笑） 普通なんだけど（笑）」

景吾「つまり、普段から魔性の女なんだな（笑）」

慶 「残念ながらそういう結果だね（笑）」

ヒサノ「と・も・か・く！ 負けたチームの方が、後でジュース奢るってどう？（笑）」

コア「お、いいね！ どう？お一人さんヽ」

景吾「上等だ（笑） ハンデとして、俺たちが負けたらジュース

2本買つてやるよ（笑）」

ヒサノ「おお、強気だねえ（笑）」

慶 「一応、運動は得意だからね、オレと景吾ヽ（笑）」

コア「見てみて！――（バツと慶と景吾とヒサノに紙を見せる）

「

ヒサノ「……？ シングルの勝負、私は慶くんとでコアは景吾と――

?」

コア「これは因縁の対決だわ（笑）」

慶&景吾「「いや、因縁じゃなしー? (笑)」」

ヒサノ「カツプル同士で当たるとはなかなか面白いじゃない？」
ユア「まずはダブルスで勝負ね！－ 負けないよー！－（^ ^）」

やる気満々の女性陣（笑）

卷之三

如月「よし、サーブいくわよ！」

ビュンッ　ピン球が空を切った音

卷之三

如月「スナップきかせて回転かけたのヽ(>^
v)」

の（笑）

もちろん、学校は違うけど偶然ね！」

如月一景吾と慶くんは初心者でしょ？構えを見る限り、（笑）

須堂「オレも授業でさよつと齧ったくらいだからなあ（汗）」

跡部＆須堂「『負けない！――』」 負けず嫌い（笑）

「スマッシュ！」
跡部「ああ、白熱して参りました！（^▽^）」

琴葉「甘い！ ブロックしちゃうもん（笑）」

須堂「うわっと、ラリー返すのが精一杯だな！（汗）」

如月「はい、ドライブで返してあ・げ・るvv（笑）」

結果：如月・琴葉ペアの勝ち

琴葉「やつた～ ジュース2本ゲットだぜ（^ ^）【ポケモン風に】」

如月「あ～、いい汗かいたv」

跡部「だいぶ、コツは掴んだな。よし、シングルで負かしてみせる

からな！（笑）」

須堂「シングルでは意地でも勝つてみせる…（笑）」

さあ、ダブルスでは勝つた女性陣

琴葉「よし、まず私から試合だよね？ ヒサノ！ 応援コロシク」

如月「オッケー！ いつてらっしゃいv 勝つてねv」

琴葉「もちv」

須堂「景吾、今度こそは勝てよ…」

跡部「ああ、絶対勝つてみせる！」

審判「跡部v s 琴葉 始め！」

琴葉「景吾くん、これも勝つたらジュース買ってくれるの？ v（笑）」

「

跡部「ああ、いいぜ？ ただし」

琴葉「？」

跡部「俺が勝つたらキスな（笑）」

琴葉「はあ！？／＼／＼／＼」

この会話を周りにいたクラスメートが嗅ぎつけた！！（笑）

『マジで！？ 跡部と琴葉さんの運命の試合だぜ！ みんな、見ておこうぜ！！（笑）』

『キス！？ 跡部、頑張れーーーー（笑）』

『ユアちゃんからキスするんだって？ ユアちゃん、勝たなくともいいんじゃない？（笑）』

『公衆の面前でキスはハズイけど、楽しそうだから応援しとくね＼ユア＼（笑）』

琴葉「待つて！？ まだオッケーしてないのに！！（汗）」

跡部「ま、オッケーも同然だな、この空気じゃ（笑）」

琴葉「…ヒサノ ……（汗）」

如月「んん、頑張れ（笑）」

琴葉「裏切り者 ……（涙） …… 如月ヒサノも負けたら彼氏にキスするつて ……（笑）」

如月「なつ！？？（…………！？）」

須堂「え？マジ？ ラッキー いただいておきます＼（笑）」

『え、マジ？（笑） この2試合は見ものだな』

『まさかヒサノまで乗るとは思わなかつたね＼（笑）』

『慶の【いただいておきます＼】つてかなり妖しかつたよな？（笑）』

『

『うん、かなりね（笑） まあ須堂くんや跡部くんみたいな人が言うと素敵だけど（笑）』

ヒサノ「コアのバカ……（涙）」

コア「それを言つなら景吾くんに文句言つてよ（笑）」

景吾「いや、ヒサノを巻き込んだのは俺じゃねえし（笑）」

慶「コアちゃん、サンキュー（笑）」

コア「あ、私が巻き込んだのか（笑）」

ヒサノ「気付くの遅つ！？（；）」

コア「いいじゃん、運命共同体でしょ？私たち（笑）」

ヒサノ「まあね（笑）いいわ、勝てばいいんだから！（笑）」

慶「お？腹を括つたの？（笑）」

コア「こんなにギャラリーついたら腹括るしかないよね（笑）」

ヒサノ「うん、そうよね（笑）」

周りにはたっくさんの生徒たちが

皆さん、『頑張れーーー！』とか、『キス獲得しそよーーー！（笑）』とか
言つて楽しんでます（笑）

さあ、試合の始まりだーーー！

審判「サーブ 琴葉！」

琴葉「よしーーー！ 勝負ーーー！」

と、気合を入れて打つたスマッシュとサーブを…？

跡部「ふん、もうダブルスで学習したからな（にやり）」

琴葉「うつそおーーー！ 返つてきたーーー！（汗）」

力強く返ってきたピン球を返したもの、アウト

その後も、このよつたな形が続き、あと2点先取でゲームセット。

負けているのは…？

琴葉「ヤバイ、ヤバイよ…！（汗）ヒサノ…！何か得策ない？」

如月「審判さん！タイム！…！」

如月「いい？景吾はバックが苦手とみた。そこをついていく！オッケー？」

琴葉「ありがと…やりてみる…！」

跡部「ん？もう相談終了か？（笑）」

琴葉「如月」「一チにアドバイスもらつたからね」

と、一瞬強気だつたが…。

審判「ゲームセット！ 勝者、跡部！」

跡部「ほらな？運命は変えられない（にやり）」

名言です

琴葉「負けた…（汗）何で…？ヒサノの読みは結構当たつてたと思ったのに…！」

須堂「景吾はね、苦手なところをすぐ直せるんだよ（笑）」

如月「天才か（笑）」

と、話していると、周りから

『おーい！勝負ついたんならキスだぞー？（笑）』と、聞こええた
琴葉「ええ…！…？（汗）」

須堂「待つて？ 次の試合でオレもキス獲得するから、一緒に（笑）」

如月「勝つ気満々ね？（笑） 負けないわよー（笑）」

さあ、コアちゃんはキス決定ですが、ヒサノちゃんはどうじょう
？？（笑）

審判「須堂▽s如月 始め！」

須堂「オレからサーブか、よしー！」

スマッシュ

如月「ええー？（汗） 速いー！ ついていけないよー！（汗）」

琴葉「ヒサノ！ 焦らずに！（笑）」

跡部「いいぞ、その調子だ、慶！（笑）」

須堂「だいぶコツを掴んだからね キスはいただき ▽」

結果。

如月「あーあーあー…（涙）」

琴葉「地の底から出でているようなうめき声をあげている如月ヒサノ
が完封負けしました（笑）」

須堂「琴葉さん、如月選手の結果、どう思われます？（笑）」

琴葉「フレッシュシャーに負け、テクニックでも負け、完璧な負けだと
思われます（笑）」

如月「実況中継すんな！！（笑）」

跡部「見事、跡部・須堂はキスを獲得しました（笑）」

須堂「さあ、キスの時間です▽（笑）」

何か、実況中継、楽しそうですね

『キース！キース！！（笑）』

と、周りから離し立てられ、恥ずかしそうに彼氏の前に行くヒサノとコア（笑）

ヒサノ「ま…マジでやるのですか？（汗）」

コア「ここは、学校ですよ？（汗）」

景吾「いいんじゃねえか？ ファーストキスがここにいる全員に

見せ付けるんだぜ？（笑）」

ヒサノ「恥知らずか!!!!（笑）」

慶「まあ、負けは負けだからね？（笑） 腹を括つたんでしょう？（笑）」

コア「あ！ ヒサノ、ちょっと…（笑）（と、言つてヒサノを部屋の隅に連れて行く）」

ヒサノ「何？」

コア「キスだけど、どこにするかは決めてないじゃん？（笑）」

ヒサノ「… 確かに…（笑） 偉い！ コアちゃん…（笑）」

2人は顔を見合させて笑つた（笑）

ヒサノ「ただいま！ ジャあキスします♪（笑）」

『おー！ やれやれ…（笑）』

『友達のキスシーンって滅多に見れないよね…（笑）』

コア「はい、じゃあ2人とも目を瞑つて？（笑）」

景吾＆慶「「了解（笑）」」

頬にキス

景吾「…まさか、今のがキスか！？（汗）」

慶 「詐欺だ！！ 頬つてあり！！？」

ヒサノ「だつて、誰も唇にするとは言つてないもん ね～！みんな！」（笑）

『あ～、確かに頬でもキスだよな（笑）』

『なんだあ、期待したのに（笑）』

『今のは跡部と須堂のミスだな（笑） しつかり場所を指定しなきや（笑）』

ユア「はい、残念」

景吾「くそつ…でも普通はキスつて唇だろ！？」

ヒサノ「それは接吻です（^ ^）」

慶 「【接吻】と書いて【キス】とも読むだろ！？」

ユア「それは人それぞれです（^ ^）」

と、永遠に言い続けているのを、ヒサノとユアは上手く丸め込んだ

（笑）

残念だつたね！彼氏ゾズ（笑）

またまた真剣！？ 卓球で勝負（後書き）

こんな卓球大会、盛り上がるかもしれないけど風紀的によくないですかね（笑）
あんまりそこらへんは考えてないのですが…。

文化祭～劇の後の記者会見～

『『『わや ！！！』』』

と、黄色い歓声が場内を沸かす
4人は、素敵に微笑みながら、映画の中の格好をして、舞台上に立っていた！

4人は、文化祭でCGを使った劇をしたのだ。
その後、舞台衣装で記者会見！

マイクをもらい、「一言ずつ挨拶を！…」というカンペを見て、景吾から挨拶をすることに

「跡部景吾です。映画を見ていただき、ありがとうございます」「須堂慶です！CGって思つたより楽しかつたです（笑）」「琴葉ユアです すぐ大声で魔法を唱えたりできて楽しかつたです！」

「最後に、如月ヒサノです 私はこのゲームのファンでしたから、この企画はとても楽しみにしていました！」

そして、監督である大学生の相沢蒼紫さんがでてきて、本格的な記者会見始まり

記者1『みなさん、役作りとかはどうされたのですか？』
ヒサノ「基本的に、役作りはありませんでした。だから、素ですね（笑）』

と、こんな感じで初めはインタビューしてたのですが…？（笑）

記者『4人は、跡部くんは琴葉さんと、須堂くんは如月さんと交際中と聞いていますが、どうなんですか？』

景吾「どうなんですか？って…（笑）普通に付き合つてますよ」

記者『お互い、心に決めていたんですか？【この人と付き合つ

!—】みたいな?』

慶 「はい、もちろん!」

女性陣 「（偶然会つただけじゃないのか?? 微妙にナンパっぽかつたし（笑））」

記者『実際のところ、どいままでいつてるんです?（笑）』

4人「「「は?」」」

観客『とほけんなよー? お前ら、学校中で噂なんだからなー?

(笑)』 クラスマートの小林君。

慶 「待て、小林!! 何だよ!! 噂つて!!!!（笑）」

記者『あれ? 知らないんですか?』

あの4人は跡部くんと須堂くんが18歳になつたら2組で学校で結婚式を上げると専らの噂で…（笑）』

4人「「「はあ!!??!!??!!」」」

コア「ま、待つて待つて!（汗） そんな計画はないですよ!!?』

ヒサノ「何でそんな噂流れてるんですか!!?（汗）』
と、女性陣がパニッてる間、慶と景吾は小声で何かを話してやりと笑った（笑）

記者『あれ? 跡部くんと須堂くんが【当たり前だ】みたいな顔してますけど?（笑）』

景吾「それはあくまで噂ですが、事実にしたいと思こます（笑）』

コア「け、景吾くん!!??!!」

慶 「そうですね、ナイスな計画だと思つるので、今のうちに婚約指輪でも用意しておきますよ!』

ヒサノ「ええ!!??!!??!!」

『『『『『おお !!!!（笑）』』』』

『いいぞーー慶! 景吾も用意しろよー?（笑）』

『そつかあ、ヒサノとコアもすぐ結婚するのね! クラスの女子で一青窈の【ハナミズキ】でも練習しどこつか?』

『いいね、それ! じゃあ男子は郷ひろみの【お嫁サンバ】?』

ヒサノ&ゴア「「待つて！？ 何でそんなに話が展開されてんの！？」（汗）」

慶 「まあ、その話は置いておいて（笑） 他に質問はありますか？』

記者『そうですね..。このCG映画を通して、お互いわかりあえたこととかありますか？』

観客『いつもカツコいい彼氏が、更にカツコよくみえて最高でした』って言つて『！』（笑）』 クラスマートの美沙ちゃん。

ゴア「美沙！！／＼／＼／＼

記者『お？ 赤くなつてるつてことは岡星ですか？（笑）』

ゴア「え、いや、..えーっと..、ヒサノ姉さんバス！！（笑）』

ヒサノ「は？（笑） そうですね、今度、旅行とか行つても楽しいだろうなあとは思いました（笑）』

記者『4人で、ですか？』

ヒサノ「はい（笑）』

慶 「彼氏と2人で行きたい』とか言えないの？（苦笑）』

ゴア「だつて、2人で行くと危ないよ（笑）』

景吾「へえ..ちゃんとそーゆー口も考えてんだな？（にやり）』

ヒサノ「バカ！！（笑）』

記者『じゃあ跡部くん、須堂くん、旅行4人で行つて、是非、頑張つて2人部屋に連れ込んでやつてください（笑）』

ゴア「なつ！？（笑）』

ヒサノ「4人部屋予約しよつと（笑）』

記者『さて、旅行の話はまた今度続きを聞くといつことで、..つて、会場、大盛り上がりですね？（笑）』

確かに 大盛り上がりです

記者『こんなに盛り上がりつたら止められませんね（笑） じゃあ、

お互いの第一印象をお聞きしましようか?』

景吾「俺はゆいは【可愛い奴だな】と、思い出しましたね(笑) 慶
とヒサノとは前から知り合いなんで、忘れました(笑)」

記者『可愛い奴だな』と、思われた琴葉さんはどうですか?』

コア「【美形だな】、【気が強そうだな】と思いましたね(笑)
慶くんは【男の子なのに綺麗だ】と。ヒサノは、第一印象と今の
印象は全然違いますね(笑) 何か、別人みたいですね(笑)』

ヒサノ「え、私、そんなに変?(笑)」

記者『僕のイメージは【クール】って感じですけど?』

コア「それが、クールじゃないんですよ(笑) 結構、そうです
ね、仲良くなればすぐわかりますよ? (笑)』

記者『へえ…じゃあ如月さん、僕とお付き合っていませんか? (笑)』

ヒサノ「告白ですか?(笑)』

慶「彼氏の前でよく口説けますね(笑)』

記者『あはは、冗談ですよ(笑) でも、僕は如月さんと琴葉さ
んのファンですからね(笑)』

慶「え? そうなんですか?(笑)』

記者『ファンクラブ入つてます(笑)』

ヒサノ「……ファンクラブなんてあるんですか!?(驚)』

記者『あれ? 知りませんでしたか(笑) 4人ともファンクラ
ブありますよ?』

4人「…マジで? (笑)」「…」「…」「…」

『マジマジ !!(笑)』

『え!? マジで知らなかつたのかよ!?(笑)』

『私、跡部くんのファンクラブ入つてるんだ!』

『俺は、コアちゃんだな あ、ヒサノちゃんのも入つてる…!』

『自分の彼女が慶のファンクラブ入つてるって複雑なんだぜー? よー! 罪な4人組! (笑)』

記者『写真とかも売られてますよ？ 学生主催購買部で（笑）』
4人「「「」……（ ）」「」「」

記者『売り上げは4人一直線つて感じです。今日の映画の写真

や、色々新たに発売されると思いますよ？（笑）』

慶 「ち、ちなみに、どんな写真が…！？（汗）』

記者『僕は今、持ち合わせてないですね…。観客の方で持つていらっしゃつたら見せてもらえますか？』

と、言つた瞬間、観客ほぼ全員が鞄や手帳から写真を出しだした
記者『ちよつとお借りしますね～。けやんと返しますから～！
まずは跡部くん』

そつ言つて、4人に見せられたのは、景吾が教室でシャレた眼鏡を
かけて勉強している写真

景吾「マジかよ…（笑）』

記者『じゃあ次、須堂くん』

次は、慶が笑顔で友達と話している写真

慶 「まあ、これくらいならいいけど…（笑）』

記者『じゃあ次、琴葉さん。あ、これは2枚セツトだよ

琴葉ゆいの写真は…。

コア「待つて！？ これ、ヤバイっしょー！？（汗）』

さあ、コアちゃんの写真とは？？

体育のあと、着替え終わる間近の写真
ブラウスの下のほつボタンをとめている写真と、鏡を見ながら胸
元にリボンをつけているところ

景吾「…」の写真、持つてる奴全員、今すぐ捨てる……。（怒）

ヒサノ「うわあ～… 際どいね（苦笑）」

慶「これは… 着替え終わってから写真撮つてほしけ（汗）」

記者『如月さん』

ヒサノ「はい？」

記者『人事じゃありませんよ？（笑）』 如月さん、もつと凄いで

すから。あ、琴葉さんもね』

ヒサノ&コア「え。（汗）」

ヒサノの写真と…。

体育のあと、更衣室でクラスの女子に遊ばれてさせられた格好
制服なんですが、滅茶苦茶ミースカで、色っぽく髪を搔き揚げてる
写真

そして、隣には同じ格好のコアちゃんも

ヒサノ&コア「「美沙　　！　！　！　売ったな！？（汗）」」

美沙「だつて、ビーしても欲しいって言われたから、三千円で↙
(笑)」

慶「この写真を持つてる男は、即座に捨ててください」（怒）

景吾「全く、何でこんな写真が出回つてんだ！？ 回収するぞ！」

回収！（怒）

記者『大丈夫ですよ？ 微笑ましい写真もちゃんとありますから

(笑)』

コア「どんな？（汗）」

そう言って、出された写真とは…。

ヒサノと景吾がじょんけんをしている写真

ヒサノ「な、なんであるの！？（汗）」

慶 「これ、確かに、じょんけんで負けたらパシリになるのを決めるじゃんけんだよね？（笑）」

景吾「げ～～ハズいな、これ（汗）」

コア「あははは、一人とも真剣だねえ（笑）」

記者『これからも、【聖華学園アイドル】達として、頑張ってください！

あ、ちゃんと今日の記者会見の写真も撮っています。今度、渡しますね！ では、これで記者会見を終ります！』

文化祭～劇の後の記者会見～（後書き）

本当は、バーチャル劇も書いてあるんですが、『テイルズオブテスティニー2』のパロディにしているので、掲載していいかわからなかつたので、省きました。
だから文章が急に文化祭に…（汗）

美沙ちゃんと小林君も後々活躍するメンバーですので！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6941/>

聖華学園物語

2010年10月9日01時46分発行